

■ 株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月中
配当金受領株主確定日	期末配当金 12月31日 中間配当金 6月30日 ※中間配当の実施を取締役会で決議した場合
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	0120-782-031(フリーダイヤル)
単元株式数	100株
株式取扱手数料	単元未満株式買取手数料 無料
お知らせ	<ul style="list-style-type: none">● 住所変更、単元未満株式の買取等のお申し出先について 株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座を開設された株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。● 未払配当金の支払いについて 株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。● 「配当金計算書」について 配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料として使用いただくことができます。確定申告をされる株主様は大切に保管ください。 ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2017年上半期は、昨年に引き続き好調な需要に支えられ、売上高は前年同期を上回る実績をあげることができました。

また本年4月には、かねてより建設を進めておりました新本社R&Dセンター(通称「RD1」)が竣工しました。革新的かつ高品質な製品をスピーディーに上市するための最新鋭の研究開発施設であるRD1を、イノベーションを起こす「知的創造の聖地」として今後の成長のベースとしてまいります。さらに、キャパシティ拡大と生産性向上を目的とした新工場も着工し、来年3月の竣工に向けて準備を進めております。

当社では、これらの投資を通じて開発・販売・生産活動の質・量・スピードを大幅に向上させながら、中長期的な成長を目指してまいります。

株主の皆様には、より一層ご理解とご支援を賜ります様お願い申し上げます。

代表取締役社長
中西 英一




2017年上半期の業績について

当上半期は、主に歯科製品関連事業が堅調に推移し、前年同期比で増収となりました。営業利益は主に販管費の増加で減益となる一方、親会社株主に帰属する純利益については為替差益により増益となりました。

[売上高]

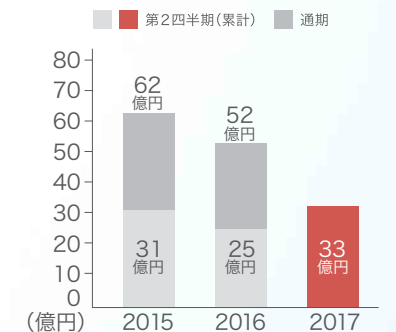
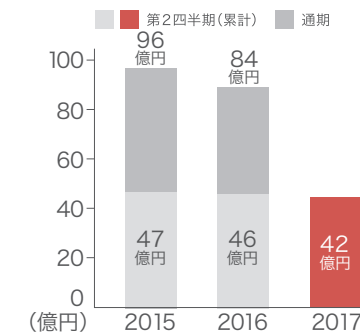
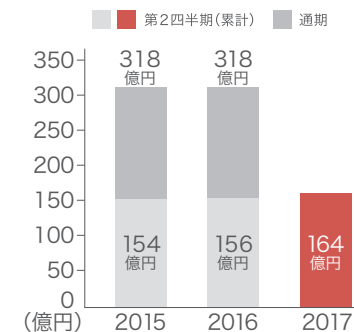
主要各地域において自社ブランド製品の販売が好調に推移し、歯科製品関連事業は前年同期比5.5%の増収となりました。工業関連製品事業も堅調な需要に支えられ、前年同期比2.2%の増収となり、当社グループ全体の売上高は前年同期比5.4%増の164億円となりました。

[営業利益]

好調な製品販売に伴い売上総利益は増加したものの、隔年で開催される国際デンタルショー(IDS)の出展関連費用、人件費、設備投資に係る償却費などの販売費及び一般管理費が増加したことから、営業利益は前年同期比9.0%減の42億円となりました。

[親会社株主に帰属する純利益]

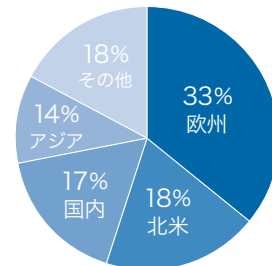
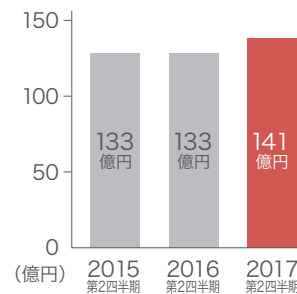
前年同期末に外貨建て資産の評価減を中心とした為替差損を計上したことに対して、当第2四半期末では対ドルで円安となったことにより為替差益を計上した結果、親会社株主に帰属する純利益は28.6%増の33億円となりました。



歯科製品関連事業の概況について

主力のハンドピース、インプラント及び予防歯科関連製品の拡販と、世界的なブランディング、アフターサービスの強化を推し進めた結果、歯科製品関連事業は好調に推移しました。

- [欧州]** ドイツ、フランス、イギリス、スペインのいずれの現地法人も好調に推移し、主力のハンドピースに加えてインプラントモーターも売上を伸ばしました。一方、OEM製品の出荷減と円高ユーロ安による押し下げ要因があり、前年同期比4.3%の減収となりました。
- [北米]** 現地営業体制が確立し、主力大手ディーラーとの関係強化も順調に進展しました。ハンドピース関連のプロモーションも寄与し、自社ブランド製品の販売が好調に推移したことから前年同期比4.9%の増収となりました。
- [国内]** 昨年上市した訪問歯科診療ユニット「ビバエース」が高い評価を得ており、受注は高水準で推移しました。主力の代理店向け自社ブランド製品、OEM製品共に堅調であり、前年同期比1.9%の増収となりました。
- [アジア]** 中国におけるディーラー網の整備が進展し、各種プロモーションやセミナーを開催するなど積極的な営業展開により順調に売上を伸ばしました。また、韓国のOEMビジネスも好調であり、前年同期比22.7%の増収となりました。
- [その他]** 原油安の影響が出始めた中東はやや落ち込みを見せたものの、ルーブル安の影響により低迷していたロシアが急回復したことに加えてブラジルの売上も伸長し、前年同期比18.7%の増収となりました。



歯科製品関連事業
2017年第2四半期
地域別売上高比率

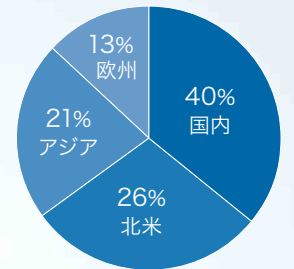
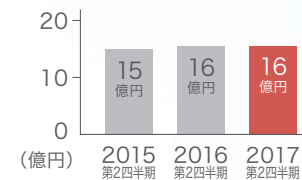
工業製品関連事業の概況について

超微細加工を実現する当社的高速スピンドルに対する引き合いは非常に高く、国内における受注は好調に推移しましたが、販売体制の再構築を進める北米が停滞したこともあり、当上半期の工業製品関連事業は前年同期比2.2%の増収にとどまりました。

下半期も自動車関連分野の超精密加工にフォーカスし、提案営業を推進すると共に、北米の営業力も強化し、国内外における小径高速スピンドルの販売に力を入れてまいります。今後も他の追随を許さない製品の開発体制の強化、生産能力の増強に努め、オンリーワンスピンドルメーカーとして、更なる市場の拡大に努めてまいります。

2017年度の業績予想について

通期の業績予想は、2017年2月8日に公表しました予想値から変更なく、前期比4.4%の増収を見込んでおります。営業利益につきましては、広告宣伝費、人件費、設備投資による減価償却費等の費用増により前期比0.5%増にとどまる見通しです。また、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、2016年度に計上していた為替差損の反動により15.2%の増収を見込んでおります。なお、2017年度の想定為替レートは1USDドル=110円、1ユーロ=115円を前提としております。



工業製品関連事業
2017年第2四半期
地域別売上高比率

2017年度 業績予想

売上高	営業利益	親会社株主に 帰属する当期純利益
332億円	85億円	61億円
前期比 4.4%増	前期比 0.5%増	前期比 15.2%増

想定為替レート

1USDドル	1ユーロ
110円	115円

新本社R&Dセンター(通称「RD1」)2017年4月竣工

イノベーションを起こす「知的創造の聖地」として始動

本年4月、本社敷地サニーキャンパス内に新本社R&Dセンター(RD1)が竣工いたしました。このRD1は、「世界をつなぐモノづくりの聖地としてのサニーキャンパスの中核を形成すべくR&D機能を強化し、地元栃木県鹿沼市から常にお客様に感動を与える製品を生み出し続ける姿」をコンセプトに立案・計画された最新鋭の研究開発施設です。

RD1では、これまで複数の建物に分散していた研究開発部門を1フロアに集約したことにより、これまで以上にスタッフ間のコミュニケーションを活性化し、新しいアイデアを素早く製品化できる体制を構築しました。また、研究開発部門に直結したエリアに最新鋭の試作・検証実験設備を新設したことにより、開発の効率化や更なる品質向上などを促進する環境を整備しております。さらに、四季折々に豊かな表情を見せる鹿沼の景観との新たな調和を目指し、世界最先端の研究開発に資する環境と空間の創出を試みて建築されたRD1は、国内外から来社されるお客様に感動を与えるホスピタリティ空間としての役割も担っています。最先端の建築と豊かな自然が調和したRD1にお客様をお迎えすることで、更なるブランドイメージ向上を図ってまいります。



RD1外観



上：電波暗室、下：環境試験・滅菌室

新工場(通称「A1工場」)2017年4月着工

グローバル市場のシェア拡大に向けた中核生産拠点として2018年4月竣工予定

歯科製品関連事業と工業製品関連事業が好調に推移する中、市場の旺盛な需要に応え、企業として中長期的な成長を実現していくために、本年4月、宇都宮西中核工業団地内に新工場となるA1工場の建設を開始しました。

A1工場は、当社的高速回転技術や超音波技術を支える精密部品を内製する最新鋭の生産拠点です。この新工場はこれまで複数の建物に分散していた多数の工程を1棟内に集約し、無駄な手間や時間ロスのない最適化された生産ラインを構築することで、より一層の効率化を追求しました。工場敷地の増床だけでなく、工程の最適化がもたらす生産性の向上によって、生産キャパシティの更なる拡大を実現してまいります。さらに、生産ライン以外の管理・厚生棟でも、スタッフが効率的に働きやすい環境に配慮した設計を採用することで、業務効率化や生産性向上を追求しております。当社では、このA1工場をベースに長年にわたる独自の精密加工技術を継承しながら、最新鋭の生産設備から生まれるグローバルクオリティを追求し、生産能力の増強を図ってまいります。



A1工場完成予想図

国際デンタルショー (IDS2017) に出展 2017年3月

本年3月21日～25日、ドイツのケルンにおいて国際デンタルショー (IDS) が開催されました。IDSは歯科業界における世界最大規模の展示会であり、今回は世界59カ国から2,305社が出展し、157カ国から業界関係者155,000名超が来場するなど、出展社数・来場者数ともに過去最高数を記録する大盛況となりました。

当社ブースにも世界各国の歯科医や歯科ディーラーの方々が多数お越しになり、常時大変な賑わいを見せました。ブース内に設置されたミーティングルームでは、歯科ディーラーの方々と当社営業担当者との商談が連日繰り広げられ、多くの受注をいただくなど、ビジネス面においても大きな成功を取っています。また、製品展示コーナーでは当社スタッフが製品説明やデモンストレーションなどを実施し、訪れた歯科医師や歯科衛生士の方々はスタッフの説明を熱心に聞きながら、当社製品の優れた操作性を体験されていました。さらに、世界統一のブランディング戦略に基づく洗練されたブースデザインや広告素材を介して、ビジュアル面でも来場者に対するイメージアップに成功しました。

当社では今後も国内外の展示会を通じて販売ネットワークの強化を図ると共に、製品をアピールすることで、信頼性の高いブランドイメージの醸成に努めてまいります。



IDS2017 出展ブース&バナー広告

国内外において歯科医師・歯科衛生士向けセミナーを積極展開

当社では、歯科医師及び歯科衛生士向けセミナーの積極的な開催を通じて、製品の使用方法や術式の普及、学術情報の提供を図ってまいりました。当社製品への理解を深めていただくこうしたセミナーを通じて、歯科診療分野全体の発展にも寄与したいと考えております。

■ 東京：訪問歯科診療セミナー 2017年7月

「食支援につながる訪問歯科のすすめ～最期まで患者さんを診るために～」と題したセミナーを東京で開催しました。訪問歯科診療で多くの実績を有する歯科医師と歯科衛生士を講師に招き、両氏の訪問歯科診療の経験を踏まえた要介護高齢者の口腔内の現状や口腔ケアのあり方、摂食・嚥下障害への治療アプローチなどについて解説していただきました。さらに、介護現場における歯科衛生士の役割や口腔内の汚れを除去するケア、汚れが付かない様に機能訓練するケアのあり方など、超高齢社会における訪問歯科診療の現状や具体的な対処法などについてもご紹介いただき、その後も積極的な質疑応答などで会場は大いに盛り上がりしました。



訪問歯科診療セミナー (東京)

■ ベトナム：口腔外科ハンズオンセミナー開催 2017年7月

ベトナムのハノイで、口腔内の骨を切削する際に使用する外科用超音波装置「バリオサージ」の治療用途や使用方法に関する実習セミナーを本年7月に開催しました。このセミナーでは、インプラント診療で豊富な実績を有する歯科医師を招き、2日間にわたって講演や実習を行いました。

ベトナムで初めてとなるこの口腔外科ハンズオンセミナーは、昨年、中国の上海と北京で好評を博し、上海では本年も再び開催されています。参加されたベトナムの歯科医師からも非常に好評だったこの実習セミナーを、今後もアジア各国で積極的に開催していくことで、当社は口腔外科の術式の普及と製品の拡販に努めてまいります。



ハンズオンセミナー (ベトナム)

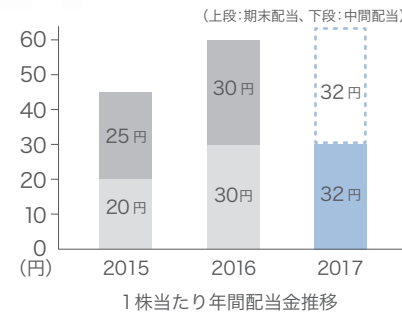
配当について

■ 2017年度中間配当実績

株主の皆様への利益還元は当社の重要な経営課題であり、当社では業績動向や事業展開に対応するための内部留保等も勘案し、安定的かつ継続的な配当を基本方針としております。2017年度につきましては連結配当性向30%の基本方針を維持し、中間配当は期初の計画通り1株当たり32円とさせていただきます。なお、配当金は2017年9月26日より支払いを開始いたします。

■ 2017年度期末配当予想

期末配当につきましては、期初の計画通り32円を予想しており、これに中間配当を合算した年間配当は、前年度比4円増配の計64円となる見込みです。



「JPX日経中小型株指数」構成銘柄に選定



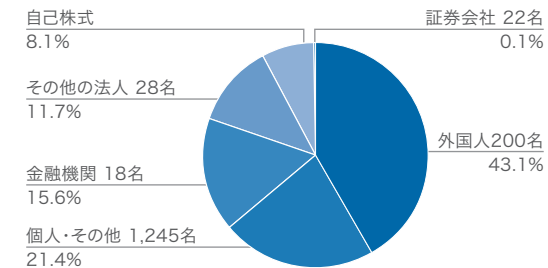
当社株式は、資本の効率的活用や投資者を意識した経営を実践する企業として「JPX日経中小型株指数」の構成銘柄に選定されました。

東京証券取引所と日本経済新聞社が共同で算出するこの指数は、JPX日経インデックス400で導入した「投資者にとって投資魅力の高い会社」というコンセプトを中小型株に適用するもので、選定にあたっては当社の高い資本効率とコーポレート・ガバナンス体制が評価されたものと認識しております。

株式の状況 (2017年6月30日現在)

- 発行可能株式総数 …………… 125,000,000株
- 発行済株式の総数 …………… 31,419,800株
- 株主数 …………… 1,514名

■ 株式分布状況



■ 大株主(上位10名)

株主名	持株数	持株比率
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	1,765千株	6.1%
ナカニシE&N株式会社	1,510千株	5.2%
中西崇介	1,430千株	5.0%
中西千代	1,430千株	5.0%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	1,241千株	4.3%
ザ チェース マンハッタン バンク 385036	1,144千株	4.0%
株式会社オフィスナカニシ	1,040千株	3.6%
中西英一	938千株	3.2%
中西賢介	935千株	3.2%
ジェーピー モルガン チェース バンク 385632	915千株	3.2%

(注) 1. 当社は、自己株式を2,544千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

会社概要 (2017年6月30日現在)

社名 株式会社 **ナカニシ**
 設立 1951年2月
 代表者 代表取締役社長 中西英一
 資本金 867,948,542円
 従業員数 1,005名(連結)
 本事業所 栃木県鹿沼市下日向700番地
 本社 工場
 東京事務所
 大阪事務所
 モスクワ事務所(ロシア)

主要関係会社 NSK-America Corp.(アメリカ)
 NSK Europe GmbH(ドイツ)
 NSK France S.A.S.(フランス)
 NSK United Kingdom Ltd.(イギリス)
 NSK Nakanishi Dental Spain S.A.(スペイン)
 NSK Oceania Pty. Ltd.(オーストラリア)
 NSK Shanghai Co.,Ltd.(中国)
 Dental X S.p.A(イタリア)

主要取引銀行 足利銀行、みずほ銀行、三菱東京UFJ銀行、三井住友銀行

役員 (2017年6月30日現在)
 代表取締役社長 中西英一
 代表取締役副社長 中西賢介
 専務取締役 尾上俊治
 常務取締役 松岡薫
 取締役 野長瀬裕二
 取締役 鈴木布佐人
 常勤監査役 豊玉英樹
 監査役 染宮守
 監査役 澤田雄二

(注) 1. 取締役 野長瀬裕二及び鈴木布佐人は社外取締役です。
2. 監査役 豊玉英樹、染宮守、澤田雄二は社外監査役です。